2024　年度　　授業概要

科目名		救急救命処置概論Ⅱ			授業の種類	講義	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間　（2単位）	配当学年・時期	救急救命士科1年			必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

救急活動で使用する観察資器材の使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価について理解できる。
目的に応じて観察資器材を使用することが出来る。

〔授業全体の内容の概要〕

テキストに準じた導入講義後、観察資器材のデモストレーション。

〔講師の実務経験〕

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

救急活動で使用する観察資器材の使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価について理解できる。
各種観察資器材を使用してシミュレーション実習で実践することができる。

回数	講義内容
1	救急蘇生法
2	救急蘇生法
3	救急蘇生法
4	傷病者搬送
5	傷病者搬送
6	在宅療養継続中の傷病者の処置
7	資器材による観察（パルスオキシメーター、カプノメーター、聴診器、血圧計）
8	資器材による観察（心電図モニター体温計）
9	救急救命士が行う処置（処置の目的と意義、気道確保、気道異物除去、口腔内の吸引）
10	救急救命士が行う処置（酸素投与、人工呼吸）
11	救急救命士が行う処置（声門上気道デバイスを用いた気道確保）
12	救急救命士が行う処置（胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の使用、電気ショック）
13	救急救命士が行う処置（静脈路確保と輸液、アドレナリン投与）
14	救急救命士が行う処置（体位管理、体温管理）
15	救急救命士が行う処置（止血、創傷処置、固定）
	定期筆記試験

【　準備学習・時間外学習　】

【　使用テキスト　】

書籍名	著者名	出版社
救急救命士標準テキスト改訂第10版		へるす出版

【　単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）　】

終講時試験。履修規定に準じる。